

わたしで最後にして

ナチスの障害者虐殺と優生思想



歴史上、障害のある人たちは社会から抹殺されてきました。ナチスによるT4作戦はその象徴的なものです。その根幹にある優生思想は、「理想の社会は、優秀な人だけが残り、弱い人は消えてもらいましょう」という考え方です。これは、けつして過去の話だけではありません。私たちの日本社会にも深く潜み、いまもときどき頭をもたげるのです。



わたしで最後にして

ナチスの障害者虐殺と優生思想

生産性がない人は生きる価値がないの？

20万人以上の障害者を虐殺したナチスと「やまゆり園事件」に通じる思想とは—

「優生思想」と「障害者差別」を考えるための1冊。



■もくじ

- 第1章 オットー・ヴァイトとの出会い
- 第2章 殺された障害者は20万人あまり
- 第3章 優生思想は多くの国々で、そして日本でもはびこった
- 第4章 優生思想に対峙する 障害者権利条約
- 第5章 「やまゆり園事件」と障害のある人の今
- 第6章 私たちにできること

日本障害者協議会代表
きょうされん専務理事

藤井克徳 [著]

◆著者紹介：日本障害者協議会代表、きょうされん専務理事(2014年より) 1949年、福井県生まれ。青森県立盲学校高等部専攻科卒業。都立小平養護学校教諭、1974年「あさやけ作業所」を開設。あさやけ第2作業所所長などを歴任。

合同出版

A5判上製/176ページ
定価=本体1500円+税

9月5日発売!

申込書	わたしで最後にして ナチスの障害者虐殺と 優生思想	ご送付先 〒
	藤井克徳【著】	お電話 FAXまたは e-mail
	■定価=本体1500円+税	お名前
		申込先 きょうされん東京支部 TEL 042-306-8633 FAX 042-367-4288